企業特集
Company special edition

ケー・ブラッシュ商会

5月に滋賀でデモ機を設置

生産性向上で拡販目指す

㈱ケー・ブラッシュ商会（東京都中央区、増田和雄社長）は、1953年の設立以来、半世紀以上にわたり欧米の一流産業機械メーカーから直輸入した製品を国内ユーザーに販売している。

ゴム関連機械については、仏レップ（REP）社の国内総代理店として、2年前から高性能ゴム用射出成型機の販売を開始。同社ではレップ社から縦型射出成型機「G9A」のデモ機を取り寄せ、5月に滋賀県に設置する計画をこのほど明らかにした。高い品質と生産性に定評があるレップ社製機械をユーザーに評価してもらい、販売拡大につなげるのが狙いだ。

来日したレップ社のパスカル・コンソラーロ＝アジアーパシフィックセールスマネージャに今後の販売戦略を聞いた。

◆レップ社について

レップ社は世界で初めてゴム射出成形機を製造したパイオニアだ。現在、世界57ヵ国で約1万1000台のレップ社製機械が使われている。世界的な受注の増加に伴い、中国、インドに相次いで生産拠点を新設し、本国フランスでも生産設備を一新したところだ。2種類の材料を投入できる高性能機でシェア90%を確保するなど、ドイツ、北米などでは高機能射出成型機で定番となっている。最近では、アジアへの販売に注力しており、特に東南アジアで存在感を見せ始めている。

日本のマーケットについて語るレップ社のコンソラーロ氏

◆日本市場について

潜在的には大きなマーケットだ。ゴム産業に影響力がある企業が日本には多い。

レップ社の顧客の70%は自動車関係だ。自動車産業が発展している日本市場に目を向けるのは当然のことだ。

◆日本国内に初めてデモ機を設置しますね

4月中にセットアップし、5月からデモ機の運用を開始する。カタログだけでなく、金型を持ってきてもらい、従来機と同じコンディションでテストできる。他の機械とは性能が違うということを体感して欲しい。百聞は一見にしかずだ。

◆レップ製機械の優れているところは？

一番の特徴は生産性が高いことだ。高品質な製品を、他メーカーと比較してより短時間で製造できる。確かにイニシャルコストは高いかもしれないが、最終的に1個、1個の生産コストが抑えられ、収益性があがるというメリットがある事を強調したい。

◆今後注力する製品は？

1台の装置で最大4種類の金型を用いて別々の製品を生産できる「4ステージ型マルチ成形機CMS」に注力している。

同機械は1台の装置で最大4種類の金型を用いて、別々の製品を生産でき、1つの金型に射出している間に、第2・第3ステージでは加硫、第4ステージで取り出しを行い、すべての工程を無駄なく行えるのが特長だ。

◆今後の販売戦略は

まずはユーザーにデモ機で性能を評価してもらい、日本市場に楔を打っていきたい。

品質と生産性の向上を訴求しながら、認知度を上げていくことも重要だ。レップ社の機械を使用することにより、ユーザーが市場で競争力を得られる手助けができれば本望だ。日本市場でも成功できると確信している。

15年のゴムロール生産

製紙用2桁伸長で1%増

日本ゴム工業会・統計委員会（ロール製品関係7社）がまとめた昨年1～12月計のゴム・樹脂ロール生産実績によると、総合計は3847t、前年比0・9%増となった。このうちゴムロールは3455tで同0・3%増、合成樹脂ロールは392tで同7・2%増。

なお、10～12月の四半期では、合計生産量が984tで前年同期比3・8%増。このうちゴムロールは3[illegible]tで同[illegible]%増となり、年間でも減少した。また、印刷用合成樹脂ロールも同様に減少した。

次いで30・2%の構成比を占める製鉄用は、合計で1102t、前年比0・5%減。そのうち製鉄用ゴムロールは前年に起きた消費増税前の仮需の反動から、1～3月は前年同期比13・4%減となったものの、それ以降反動減で前年同期比17・0%減と落ち込んだものの、4～6月は同13・4%増、7～9月は同26・6%増、10～12月も同20・4%増となり、年間でも2桁に近い伸びとなった。製紙用樹脂ロールは年間で2割近い伸びを示した。

先限は150円台で推移
ITRCが輸出削減へ

2月の東京ゴム相場の推移を見ると、当限終値は落。春節休み明けの15日以降も140円台前半でし、ゆるやかに上昇しながら155・1円で大引けを迎えた。

2月の東京ゴム相場は、円高の影響から金を除く円建て商品が軒並み下落している中、比較的堅調な動きを見せた。中国が春節休みに入った8日以降は、需要家の手当てが止まることなどから相場は

RSS3号 先物取引相場（2016年2月）

当限 東京相場先限 シンガポール期近 シンガポール相場（セント／kg）